

令和 6 年 4 月 12 日現在

機関番号：30109

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K18294

研究課題名（和文）知的・発達障害をもつ若年層のDV予防教育プログラム開発

研究課題名（英文）Development of DV prevention program for young people with intellectual and developmental disabilities.

研究代表者

須賀 朋子（Suga, Tomoko）

酪農学園大学・農食環境学群・教授

研究者番号：50743085

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：若年層を中心に起きているデートDVは、近年増加傾向にある。特に知的障害・発達障害がある生徒がデートDVに巻き込まれていることが社会問題になっている。しかし本人たちは、デートDVを受けていることに気づかずに、ひどい状況に陥ることが多い。また、相談をすることができない生徒も多い。これらのことを明らかにしていくために、特別支援学校・学級の経験がある教員にインタビュー調査を行った。また、特別高等支援学校の生徒にDV予防教育の介入授業を行い、アンケート調査を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

知的・発達障害特別支援学校・学級の教員7名にインタビュー調査を行った結果から、全員の教員から、生徒がデートDV被害に巻き込まれたことを見聞きしていることが明らかとなった。また軽度の知的・発達障害をもつ生徒が通学する高等支援学校でのDV予防教育の授業後でも「誰かに相談できる」と回答した生徒は57.2%と6割にも届かなかった。このことから繰り返しのDV予防教育の必要性和、周囲の大人の注意深い見守りが必要であることが示された。

研究成果の概要（英文）：Dating DV, which occurs mainly among young people, has been on the increase in recent years. In particular, students with intellectual and developmental disabilities are involved in dating DV, which has become a social problem. However, the individuals themselves are often unaware that they are being subjected to dating DV and find themselves in a terrible situation. Many students are also unable to seek advice. In order to clarify these issues, an interview survey was conducted with teachers who had experience in special schools and classes. In addition, intervention classes on DV prevention education were given to students in special tertiary schools and a questionnaire survey was conducted.

研究分野：ジェンダー

キーワード：ドメスティック・バイオレンス 知的障害 発達障害 若年層 予防教育

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

2015年の内閣府の調査(10代から30代の交際相手があったことがある女性904名、男性943名)では女性の19.1%、男性の10.6%が交際相手から1度でもひどい暴力を受けたことがあると回答していた<sup>1)</sup>。尚、直近の2024年度の内閣府の調査では女性の22.7%、男性の12.0%が交際相手から暴力被害を受けたことがあると回答している<sup>2)</sup>。また2011年にDPI女性障害者ネットワークが行った障害女性当事者87名への聞き取り調査では回答者の35%が「性暴力被害経験がある」と回答し、被害を受けた場所は家庭内や職場、学校、福祉施設と回答をした<sup>3)</sup>。これらの日本の状況を概観して、DVの問題、特に障害をもった女性の35%が性暴力の被害者である状況は見逃ごせないことから、障害を持った若年層にDV・性暴力予防教育を行うことにより、生涯に渡って未然に被害、加害をふせげるのではないかという着想のもと、本研究に着手した。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は知的または発達に障害をもつ若年層が、親密な関係にある者またはあった者から暴力を振るわれること、または振るうことを予防するための人権教育プログラムの開発を行うことである。

### 3. 研究の方法

#### 1) 知的・発達障害特別支援学校または学級の教員へのインタビュー調査(調査1)

知的・発達障害特別支援学校または学級の教員7名に半構造化面接を行い、ICレコーダーに録音(約5分)し、質的統合法で分析を行った。質問項目は「生徒がデートDV被害を受けたことを聞いたことがあれば具体的に話してください。生徒が虐待を受けていたり、DV家庭であることを感じるがあれば具体的に話してください。知的・発達障害特別支援学校や学級でDV予防教育は必要だと思うか?どんな内容を盛り込んだほうが良いか教えてください。」の3項目を質問した。インタビューから得たデータを書き起こし精読をした。質的統合法を用い、意味内容の類似性に従い分類し、抽象度を上げるごとに小表札< >、中表札「」、大表札【】として表示した。

#### 2) 高等支援学校でのDV予防教育の介入授業と、授業後のアンケート調査(調査2)

A県にある知的・発達障害のある生徒が通う高等支援学校(障害者手帳を持っているか、中学まで通級学級や特別支援学級に通学していたことが入学の条件となる)においてDV予防の介入授業を行った。

対象は高校1年生から3年生までの33名(男18、女15)でパワーポイントを使用して60分間の授業を行った。授業の内容は人との出会いについて、デートDVに至る場面のストーリー(男子編と女子編)、お互いを尊重するとはどういうことか?暴力の種類、暴力のサイクル、DVの定義、DVの被害者の数、DVはだれにでも起こりえること。授業のなかで暴力の種類と暴力のサイクルについては、ゆっくりと丁寧に説明を行った。

授業後、アンケート用紙を生徒に配布し記入を依頼した。アンケートの内容は以下の通りで、各問、いずれか1つを選ぶこととした。(1)デートDVについて知ってよかったか?〔よかった・どちらかといえばよかった・どちらかといえばそう思わない・そう思わない〕(2)授業後、デートDVが自分に関係のあることだと思ったか?〔関係のあることだと思った・少しは関係あると思った・あまり関係があることだと思わなかった・自分にはやっぱり関係ないことだと思った〕(3)交際相手との間で次のような行為があったとき、その行為を暴力だと思うか?殴ったりけったりする、どなる、長時間無視する、メールチェックや友達つきあいを制限する、

交際費をいつも払わせる、避妊に協力しない)これらの行為を〔そう思う・どちらかと言えばそう思う・どちらかと言えばそう思わない・そう思わない〕のなかから、各問、1つを選ぶこととした。(4)あなたが交際した場合、次のようなときに自分はどうに対応するか?交際相手と意見が合わないとき〔自分の意見に従わせる・話し合いで決める・自分の意見を言うが相手に合わせる・相手に合わせる〕交際相手に腹がたったとき〔非難する・無視する・がまんする・自分の気持ちを言葉で伝える〕暴力を振るったとき〔あやまる・あやまらない・交際をやめる〕暴力を振るわれたとき〔やめてという・やり返す・がまんする・にげる〕暴力を振るわれたら相談するか?〔だれにも相談しない・気づいてもらえるようにふるまう・だれかにメールなどで相談する・だれかに直接相談する〕。各問、いずれか1つを選ぶこととした。

### 4. 研究成果

#### 1) 調査1

教員7名へのインタビュー調査から抽出された「知的・発達障害特別支援学校・学級の生徒が受けたデートDV」を(表1)に示した。「公園の障害者トイレに連れ込まれての性行為」という内容が複数の教員から抽出されたことから、地域で公園のトイレの巡回などをする必要があることが研究から明らかとなった。「虐待を受けていたり、DV家庭であることをどのように知るか」から抽出された内容を(表2)に示した。子どもの様子から判断することが多いことが明らかと

なった。「知的障害のある生徒へのDV予防教育の必要性と内容」から抽出されたことを(表3)に示した。7名全員の教員が「DV予防教育は知的に障害がある生徒に必要」と回答したことから重要性が明らかとなった。

表1 知的特別支援学校・学級の生徒が受けたデートDV

大表札	中表札	小表札
高等部	性行為の強要	駅の障害者トイレで無理やり性行為
		公園の障害者トイレで社会人に性行為をされたことを自慢げに話す家で無理やり裸にされた
中等部	性行為の強要	殴る蹴るの後、女子生徒が性行為を受け入れる
		精神的暴力 「裸の写真を送れ」と男子生徒に命令されて女子が送ってしまった
		上級生が校内で下級生に性行為

表2 虐待を受けていたり、DV家庭であることをどのように知るか

大表札	中表札	小表札
学校内外の関係者	下級の学校からの申し送り	中学部から「この子は虐待で児童相談所に保護されたことがある」
	児童相談所	虐待や家庭の状況を教えてくれる
保護者	母親	「私が主人から暴力をうけているから」と言う
		「主人が許さないから」と言う
	親の知的問題	保護者が知的障害であるため家庭に指導が入らないことが悩み。親が身体的、言葉、性的な暴力をする
子どもの様子	行動	トイレの介助のときよるめいたので、抑えようと思ったら身がかがめた
		高等部の子で人との距離間がおかしい、やたらとベタベタしたり、過剰反応をしたりする子がいて、DVでの離婚家庭であった
		注意されるとフリーズする
		些細な事で、すぐに暴力がでる。頻度と強度が高く、暴力の家庭背景があるかなと感じる
	言葉	「あっち行け」と繰り返す子がいて、家で「あんたはあっちに行って」と言われて育ったようだ
		本人が「パパがママをたたく」と言う
		言葉で「叩かれたんだ」という
		「どうせ大人は」「お前ら仕事だからでしょ」が口癖の子がいた
		小学校低学年とは思えない怖い言葉を使う
	着替えの場面	あざなど、発見しやすい

表3 知的障害のある生徒へのDV予防教育の必要性と内容

大表札	中表札	小表札
DV予防教育は知的に障害がある生徒に必要	生徒の知的能力を考えると必要がある	「こういうことがDV」という正しい情報を教えたい
		暴言暴力は絶対にいけないと言っている
		職場(アルバイト先など)で性暴力を受けることが多い
		「自分が受けていることは暴力だ」というセルフチェックができるようにしたい
		自分で助けを求めることができない生徒が多い
	大人と子供の	安心した居場所、信頼できる仲間をつくる経験を積ませたい
	絆を作る必要	信頼できる大人に助けを求めていいんだよということを教えたい

## 2) 調査2

A 県にある知的・発達に障害がある生徒が通う、高等支援学校で DV 予防の介入授業を行い、授業後にアンケート調査を行った。「デートDV」についての設問の結果を(表4)に示した。「良かった」、「どちらかと言えば良かった」と肯定的な意見が96%であった。「交際相手との間で次のような行為があったとき、その行為を、暴力だと思うか」の結果を(表5)に示した。「あなたが交際した場合、次のようなときに自分はどのように対応するか」の結果を(表6)に示した。

「暴力を振るわれたら相談するか?」の設問に「だれかにメールなどで相談する」、「だれかに直接相談する」と、相談できる考えのある生徒は、授業後でも57.2%であった。「だれにも相談しない」と回答した生徒が25.7%と高いことに注視し繰り返しの予防教育が必要であることが示唆された。

表4 デートDVについて n=33, 数字は%

	良かった	どちらかと言えば良かった	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
1.デートDVについて知って良かったか?	72.8	21.2	3.0	3.0
2.授業後、デートDVが自分に関係のあることだと思ったか?	関係ある事だと思った 24.3	少しは関係あると思った 24.2	あまり関係があることだと思わなかった 27.3	自分にはやっぱり関係ないことだと思った 24.2

n=33, 数字は%

表5 交際相手との間で次のような行為があったとき、その行為を、暴力だと思うか。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1.殴ったり蹴ったりする	77.1	11.4	2.9	8.6
2.怒鳴る	55.9	26.5	2.9	14.7
3.長時間無視する	41.2	38.2	8.8	11.8
4.メールチェックや友達づきあいを制限する	52.9	20.6	11.8	14.7
5.交際費をいつも払わせる	55.8	26.5	5.9	11.8
6.避妊に協力しない	64.7	14.7	8.8	11.8

n=33, 数字は%

表6 あなたが交際した場合、次のようなときに自分はどのように対応するか

1.交際相手と意見が合わないとき	自分の意見に従わせる 5.7	話し合いで決める 57.1	自分の意見を言うが相手に合わせる 20.1	相手に合わせる 17.1
2.交際相手に腹だったとき	非難する 2.9	無視する 14.7	がまんする 55.9	自分の気持ちを言葉で伝える 26.5
3.暴力を振ったとき	謝る 66.7	あやまらない 9.1	交際をやめる 24.2	
4.暴力を振られたとき	やめてという 38.2	やり返す 17.6	我慢する 26.5	逃げる 17.7
5.暴力を振られたら相談するか	誰にも相談しない 25.7	気づいてもらえるようにふるまう 17.1	誰かにメールなどで相談する 17.1	誰かに直接相談する 40.1

n=33, 数字は%

(文献)

- 1) 内閣府男女共同参画局：男女間における暴力に関する調査報告書<概要版>,2015.
- 2) 内閣府男女共同参画局：男女間における暴力に関する調査報告書<概要版>,2024.
- 3) NPO 法人全国シェルターネット：障害女性に対する暴力・複合差別の課題と支援の在り方を考える．第20回全国シェルターシンポジウム in 東京抄録集、p.24, 2017.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 須賀 朋子	4. 巻 1906
2. 論文標題 中学校におけるDV予防教育 前編 DV予防プログラム開発	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 少年写真新聞 中学保健ニュース	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須賀 朋子	4. 巻 1908
2. 論文標題 中学校におけるDV予防教育 後編 中学生向けの授業について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 少年写真新聞 中学保健ニュース	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柿崎優希・須賀朋子	4. 巻 47-2
2. 論文標題 獣医学生のギフトとみられる群の推定-WAIS- 知能検査からの推測-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 酪農学園大学研究紀要人文社会学編	6. 最初と最後の頁 49-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 須賀 朋子	4. 巻 14(2)
2. 論文標題 生命の安全教育の大切さ：知的・発達障害をもつ中学生に焦点をあてて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本セーフティプロモーション学会誌	6. 最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 須賀 朋子・栗本 翔太	4. 巻 46(1)
2. 論文標題 WAIS- 知能発達検査は獣医学生の進路選択に役立つか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 酪農学園大学研究紀要人文社会科学編	6. 最初と最後の頁 27-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 須賀 朋子	4. 巻 13(2)
2. 論文標題 知的障害や発達障害をもつ高校生へのドメスティック・バイオレンス予防教育の挑戦	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本セーフティプロモーション学会誌	6. 最初と最後の頁 26-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 須賀 朋子	4. 巻 13(2)
2. 論文標題 Safe Communityを目指したDV民間女性シェルターと配偶者暴力相談支援センター：新型コロナウイルス感染症の対応	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本セーフティプロモーション学会誌	6. 最初と最後の頁 9-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suga Tomoko	4. 巻 7
2. 論文標題 Response to Domestic Violence During the COVID-19 Outbreak in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Violence and Gender	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1089/vio.2020.0043	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suga Tomoko	4. 巻 29
2. 論文標題 Protecting women: new domestic violence countermeasures for COVID-19 in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sexual and Reproductive Health Matters	6. 最初と最後の頁 1874601 ~ 1874601
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/26410397.2021.1874601	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 須賀 朋子	4. 巻 21
2. 論文標題 若者層へのDV予防教育の内容紹介と効果ー高校、大学での結果からー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 全国シェルターシンポジウム報告書	6. 最初と最後の頁 68 - 69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suga Tomoko	4. 巻 6
2. 論文標題 An Analysis of Surveys on Domestic Violence by Japan's Cabinet Office (1999-2017)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Open Journal of Social Sciences	6. 最初と最後の頁 56 ~ 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4236/jss.2018.67005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suga Tomoko, Shiota Mayumi	4. 巻 5
2. 論文標題 The Effectiveness of Preventive Education against Dating Violence in Japanese Agricultural and Commercial High Schools	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 OALib	6. 最初と最後の頁 1 ~ 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4236/oalib.1104542	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suga Tomoko, Rakuno Gakuen University	4. 巻 1
2. 論文標題 The Effectiveness of a Domestic Violence Prevention Program in Japanese Agricultural University	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Social and Political Sciences	6. 最初と最後の頁 158 ~ 167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.31014/aior.1991.01.02.11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suga Tomoko	4. 巻 6
2. 論文標題 Japanese Educators' Knowledge of DV	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Open Journal of Social Sciences	6. 最初と最後の頁 14 ~ 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4236/jss.2018.62002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 柿崎優希・須賀朋子
2. 発表標題 獣医学生と獣医保健看護学生のWAIS- 知能検査結果による知能特性の推測 - 知的ギフトとみられる群が安全な医療を促進するために-
3. 学会等名 第16回 日本セーフティプロモーション学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 須賀 朋子
2. 発表標題 知的・発達障害をもつ高校生へのDV予防教育
3. 学会等名 第13回日本セーフティプロモーション学会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 須賀朋子
2. 発表標題 知的特別支援学校の生徒が虐待、DVを受けている兆候に関する調査
3. 学会等名 第16回日本教育保健学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 須賀朋子、塩田真弓、高橋飛鳥、社本麗南
2. 発表標題 若者層へのDV予防教育の内容と効果－高校、大学での結果から－
3. 学会等名 第21回全国シェルターシンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 須賀 朋子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 かりん舎	5. 総ページ数 31
3. 書名 面前DV、虐待被害者の叫び	

1. 著者名 須賀 朋子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 かりん舎（電子図書）	5. 総ページ数 34
3. 書名 中学生・高校生のためのDV、デートDV予防教育プログラム	

1. 著者名 須賀 朋子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 かりん舎	5. 総ページ数 35
3. 書名 中学生・高校生のためのDV,暴力予防教育プログラム	

1. 著者名 須賀 朋子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 かりん舎	5. 総ページ数 23
3. 書名 保育士、教師がDV被害を受けた親子を理解するための本	

1. 著者名 Tomoko Suga	4. 発行年 2018年
2. 出版社 かりん舎	5. 総ページ数 32
3. 書名 Dating Violence Prevention Program for Junior high school of high school students in Japan-To build respectful relationship-	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------